

南丹波地方における古代集落について

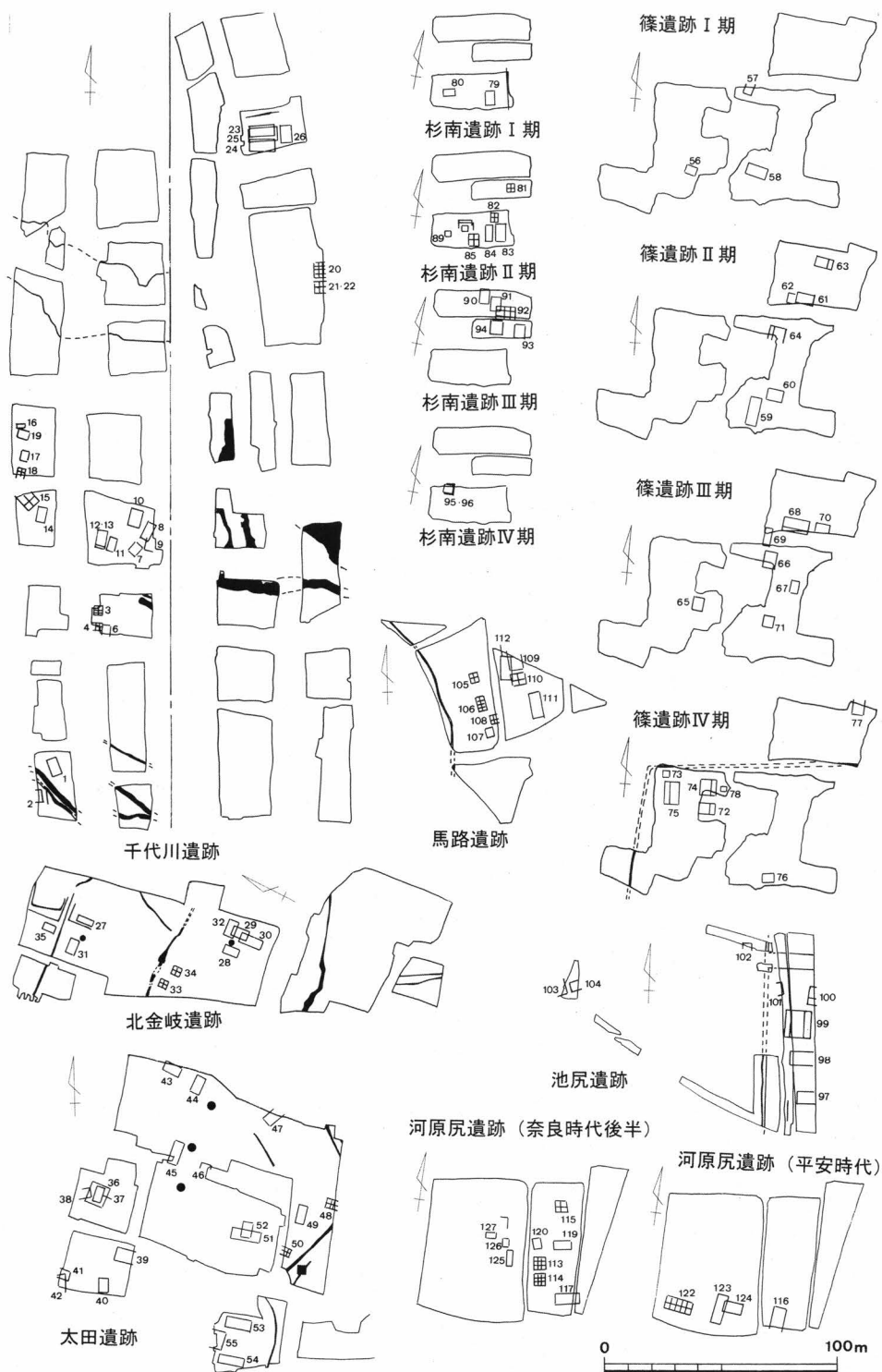
岡崎 研一

はじめに

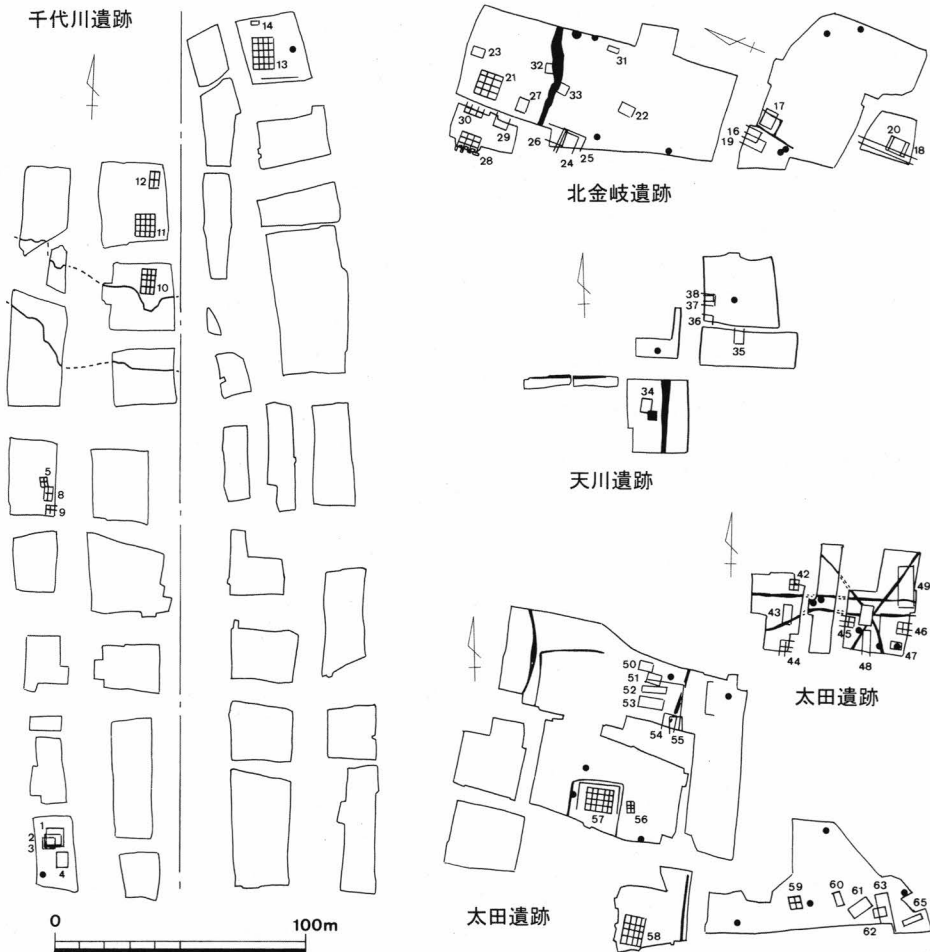
南丹波地方での発掘調査の結果、官衙関連遺跡や集落遺跡の発見例が増えてきている。ここでは、奈良～鎌倉時代の掘立柱建物跡を取り上げ、その規模・構成などから古代集落遺跡の性格についてまとめた。

1. 南丹波地方における発掘調査成果(奈良～平安時代)

千代川遺跡は、丹波国府推定地の一つである。推定地西辺から9世紀前半～後半の掘立柱建物跡・溝・井戸と、北限北側から9～10世紀の掘立柱建物跡を検出した。これら建物は企画性に欠け、国庁域あるいは方六町域を区画するような溝や柵列は見つかっていない。しかし、緑釉陶器・灰釉陶器・瓦・墨書土器・木簡や石帯の出土などから、この付近に官衙的な施設が^(注1)存在した。北金岐遺跡からは、奈良時代の掘立柱建物跡・井戸・溝を検出した。溝を境に建物は2群に分かれ、建物跡の規模や瓦の出土が見られないことから一般集落であった。^(注2)太田遺跡は、行者山山麓の微高地上に展開する。平安時代の掘立柱建物跡・溝・井戸を検出した。2×5間の建物が平行に配され、その隣接地に総柱建物^(注3)が存在する。篠遺跡は、亀岡盆地南東部の河岸段丘に広がる集落遺跡である。奈良時代後半～平安時代の掘立柱建物跡・溝・井戸を検出した。南側丘陵斜面に展開する篠古窯跡群の窯業集団を統括した地元豪族の居館と想定^(注4)している。杉南遺跡は、丹波国府推定地の一つとされ、八木町屋賀の東隣に位置する。掘立柱建物跡と溝を検出した。建物群の内、総柱建物の数が4割近く占めることから倉庫群であるとし、国府あるいは郡衙に関連する施設とするが明らかでない。^(注5)池尻遺跡は、池尻廃寺東側に隣接する遺跡である。奈良時代前半の掘立柱建物跡・「L」字状に屈曲する柵列・溝を検出した。柵列で区画された範囲に掘立柱建物跡が3棟並ぶ。建物は、両面庇建物を中心に南側に2棟併設する。大規模な建物群が整然と配され、柵列や溝で画されていたことから、丹波国府あるいは桑田郡衙ではないかと想定される。^(注6)馬路遺跡からは、奈良時代後半～平安時代の建物を8棟検出した。総柱建物跡・側柱建物跡である。これらの建物は南北方向に配され、梁間2間を基本とする。建物西側



第1図 遺構図(1)



第2図 遺構図(2)

には、同方向の溝も存在する。^(注7) 丹波国分尼寺跡南側約300mに位置する河原尻遺跡からは、奈良時代後期～平安時代にかけての掘立柱建物跡を検出した。奈良時代後期の建物群は西に若干振るが、平安時代には、国分尼寺と同方向の南北方向に築かれる。^(注8)

2. 南丹波地方における発掘調査成果(鎌倉時代)

千代川遺跡からは、掘立柱建物跡・柵列・井戸などを検出している。検出状況から、規模の大きな建物1ないし2棟と小型の建物1棟が一単位を構成する。^(注9) 北金岐遺跡からは、掘立柱建物跡を確認している。建物規模としては1～2間×2～3間の小規模な側柱建物の中に、3間×3～4間の総柱建物が存在する。これら掘立柱建物跡の時期は、12～13世紀とする。^(注10) 天川遺跡からは、鎌倉時代の溝や土坑を検出した。溝の規模は、幅2～2.5m、深さ40cm前後を測り、東西方向に500m延びることが確認されている。ここから多量の瓦

器・土師器が出土した。集落構造を明らかにするには至らなかったが、当地は佐伯荘の一角にあたる。^(注11)太田遺跡からは、掘立柱建物跡・溝・井戸・柵列を検出した。溝は、ほぼ南北方向、L字あるいはコ字状を呈し、柵列もL字あるいはコ字状に沿って巡る。これら溝や柵列で区画された所に大型の建物が存在し、その周辺地である北側と東側に、規模の小さな建物が数棟づつ存在する。このような遺構の配列は、条里区画にともなうものと考えられ、佐伯荘につながるものかと思われる。^(注12)

3. 奈良～平安時代の掘立柱建物跡について

表1・2では、掘立柱建物跡の規模を一覧にし、桁行と梁間でもって第3図に示した。これらから掘立柱建物跡を次の3群に分け、各遺跡の様相を見てみた。

A群 およそ床面積45㎡以上で、桁行5間以上の大型建物である。なかには有底建物や総柱建物があり、およそ3割を占める。このグループに該当する建物は、中心的な施設「屋」に相当し、千代川・太田・篠・杉南・池尻・河原尻遺跡で認められた。この内、有底建物や総柱建物は、太田・篠・杉南・池尻・河原尻遺跡で認められた。

B群 床面積25～45㎡もので、桁行3～4間を主とするものである。このグループの中で小規模なものに総柱建物があり、C群よりもひとまわり大型の倉を含むと思われる。杉南・河原尻遺跡に大型の倉が存在する。

C群 床面積25㎡以下のもので、桁行2間×梁間2間のものが大半を占める。この建物群の半数は総柱建物で、該当する建物の大半は「倉」と考える。同規模の側柱建物についても倉である可能性は高い。千代川遺跡・杉南遺跡の総柱建物は、他の遺跡のものに比べて桁行・梁間ともにわずかに大きなものを含む。

千代川遺跡では、出土遺物から官衙の様相の濃い遺跡で国府推定地とされているが、国府域西辺での調査では、A群建物が整然と検出できたのは推定域外の北端においてである。ここから側柱建物4棟、総柱建物2棟、建物に平行する溝1条である。国府域を区画する溝や堀などは無く、方六町域の整備が行われなかったとされる。金田氏の報告に、「国府は、(略)国庁と道路を核ないし軸として官衙群が配置された機能的な構造を基本とした機構であった。^(注13)」とし、国府域にこだわる必要はないとされる。このように考えると拝田丘陵裾部の高台を利用して、中心施設が展開し、道路によって関連施設に通じていたと考える。最近の調査成果で、池尻遺跡では大型建物が整然と配され、それらを囲む形で溝や柵列が検出された。中心施設や付属施設の規模・配置などから、8世紀後半頃の国府あるいは郡衙であったとされる。その全容については不明である。千代川遺跡南側で建物を17棟、遺跡南端部で建物2棟検出した。それぞれの集落の構成については不明である。また集落

第1表 掘立柱建物跡規模一覧表 (奈良～平安時代1)

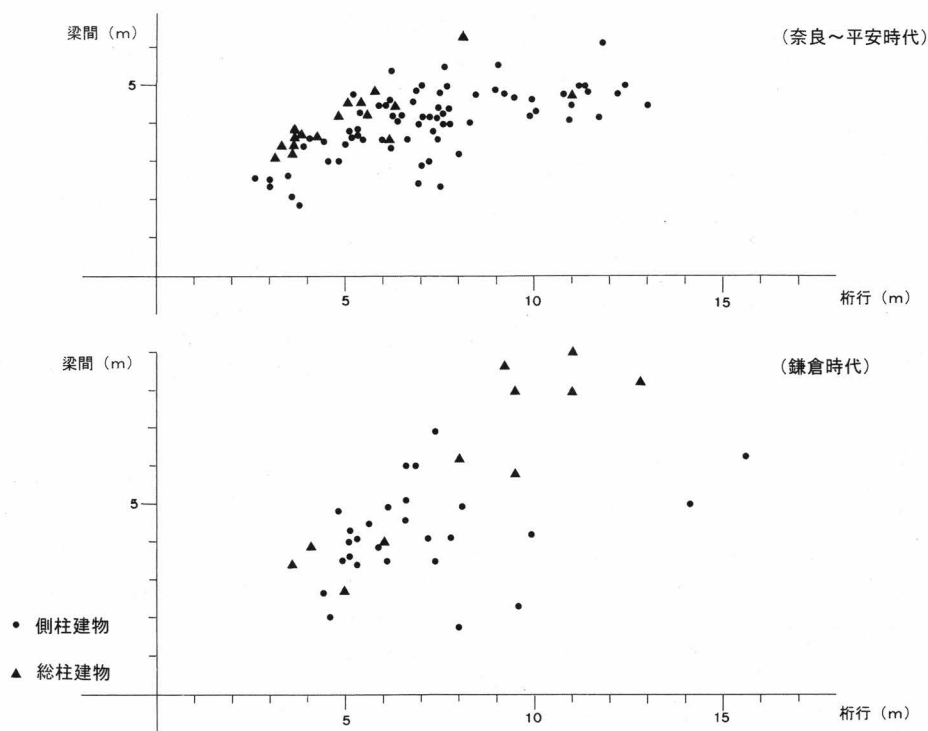
番号	遺跡名	遺構番号	建物 形態	規 模 (m)		面積 (㎡)	主 軸		番号	遺跡名	遺構番号	建物 形態	規 模 (m)		面積 (㎡)	主 軸	
				桁 行	梁 間		方 向	方 向					桁 行	梁 間		方 向	方 向
1	千代川	SB10168	側柱	4間	7.4	6.9	51.06	N2° W	34	天 川	SB02	側柱	3間 2間～	5.1 3.5～	4.0	20.40	N6° E
2	千代川	SB10171	側柱	4間	6.6	4.6	30.36	N90° W	35	天 川	SB03	側柱	2間	3.5～	3.8	-	N2° E
3	千代川	SB10166	側柱	3間	5.1	3間	4.3	N3° W	36	天 川	SB04	側柱	1間～	2.0～	1.8～	-	N86° W
4	千代川	SB10167	側柱	4間	6.1	3間	4.9	N89° W	37	天 川	SB05	側柱	1間～	2.0～	3.8	-	N85° W
5	千代川	SB15001	総柱	2間	5.0	2間	2.7	N3° W	38	天 川	SB06	側柱	1間～	2.0～	2.5	-	N88° W
6	千代川	SB15002	総柱	2間～	4.7～	2間	3.4	-	39	天 川	SB07	側柱	3間	7.8	2間	31.98	N2° W
7	千代川	SB15003	総柱	1間～	1.5～	1間	1.7	N6° E	40	天 川	SB08	側柱	3間	7.2	2間	29.52	N1° W
8	千代川	SB15007	総柱	2間～	4.3～	2間	3.6	N7° E	41	天 川	SB09	側柱	1間～	2.2～	4.0	-	N2° W
9	千代川	SB15008	総柱	1間～	1.7～	1間～	1.4～	-	42	太 田	掘立1	総柱	2間	4.1	2間	15.79	N6° E
10	千代川	SB11001	総柱	4間	9.5	3間	5.8	N5° E	43	太 田	掘立2	側柱	3間	7.4	2間	25.90	N1° E
11	千代川	SB12001	総柱	4間	9.5	4間	8.0	N1° E	44	太 田	掘立3	総柱	1間～	2.4～	2.1～	-	N5° E
12	千代川	SB12002	総柱	2間	6.0	2間	4.0	N3° E	45	太 田	掘立4	総柱	1間～	2.4～	4.1	-	N9° E
13	千代川	SB35001	総柱	5間	13	4間	8.2	N3° W	46	太 田	掘立5	総柱	2間～	4.4～	4.35	-	N10° E
14	千代川	SB35002	-	1間	2.7	1間～	1.9～	N89° E	47	太 田	掘立6	側柱	2間	4.4	1間	11.88	N6° E
15	千代川	SB35003	-	2間	3.6	1間～	2.5～	N85° W	48	太 田	掘立7	-	3間～	5.2～	3.0	-	N2° E
16	北金岐	B-SB31	側柱	2間～	4.2～	2間	4.8	-	49	太 田	掘立8	側柱	6間	15.6	3間	98.28	N0° W
17	北金岐	B-SB32	側柱	3間	6.6	2間	5.1	N2° E	50	太 田	SB31	側柱	3間	5.3	2間	18.02	N78° W
18	北金岐	B-SB33	側柱	2間	6.9	2間	6.0	N7° W	51	太 田	SB32	側柱	2間	5.6	2間	25.20	N69° W
19	北金岐	B-SB38	側柱	2間～	5.7～	2間	4.5	-	52	太 田	SB33	-	5間	9.6	1間	22.08	N83° W
20	北金岐	B-SB48	側柱	2間	6.6	2間	6.0	N3° W	53	太 田	SB34	側柱	4間	9.9	2間	41.58	N77° W
21	北金岐	C-SB02	総柱	4間	9.2	3間	8.7	N8° W	54	太 田	SB35	側柱	2間～	5.3～	5.0	-	N12° E
22	北金岐	C-SB09	側柱	3間	5.9	2間	3.9	N3° E	55	太 田	SB36	側柱	2間～	4.7～	4.8	-	N1° E
23	北金岐	C-SB17	側柱	2間	4.9	2間	3.5	N10° W	56	太 田	SB148	総柱	3間	3.6	2間	12.24	N1° W
24	北金岐	C-SB56	側柱	3間～	6.3～	3間	10	-	57	太 田	SB161	総柱	5間	11.0	4間	99.00	N81° W
25	北金岐	C-SB57	総柱	2間～	5.4～	2間	5.3	N5° W	58	太 田	SB149	総柱	4間	11.0	8.0	88.00	N19° W
26	北金岐	C-SB59	側柱	2間～	5.7～	2間	6.0	-	59	太 田	SB153	側柱	2間	4.8	2間	23.04	N19° W
27	北金岐	C-SB60	側柱	2間	5.1	2間	3.6	N3° W	60	太 田	SB154	側柱	3間	6.1	2間	21.35	N25° W
28	北金岐	C-SB62	総柱	3間	8	3間	6.2	N7° W	61	太 田	SB155	側柱	5間	8.1	3間	39.69	N57° E
29	北金岐	C-SB63	総柱	1間～	1.8～	3間	7.2	-	62	太 田	SB156	側柱	3間	5.3	2間	21.73	N78° E
30	北金岐	C-SB64	側柱	3間	6.0	1間～	3.0～	N6° W	63	太 田	SB157	側柱	5間	14.1	2間	70.50	N12° W
31	北金岐	C-SB10	-	2間	4.6	1間	9.2	N9° W	64	太 田	SB158	-	3間～	2.1～	2.5～	-	N34° W
32	北金岐	C-SB15	側柱	1間～	1.7～	2間	3.8	N16° W	65	太 田	SB159	-	3間	8.0	1間	14.40	N70° E
33	北金岐	C-SB29	側柱	1間～	2.1～	2間	3.5	N3° E									

第2表 掘立柱建物跡規模一覽表 (奈良～平安時代2)

番号	遺跡名	遺構番号	建物 形態	規 模 (m)			面積 (㎡)	主 軸		面積 (㎡)	主 軸 方 向								
				桁 行	梁 間	間		方 向											
65	篠	SB02	側柱	3間	6.2	2間	4.6	28.52	N11° E	97	池 尻	SB01	側柱	3間	6.7	2間	5.4	-	N2° W
66	篠	SB04	側柱	3間	7.2	2間	5.4	38.88	N12° E	98	池 尻	SB02	側柱	4間	9.4	2間	5.7	-	N2° W
67	篠	SB14	側柱	3間	5.3	2間	3.8	20.14	N12° E	99	池 尻	SB03	側柱	5間	11.3	2間	5.0	56.50	N2° W
68	篠	SB15	側柱	5間	11.7	2間	4.2	49.14	N80° W	100	池 尻	SB05	側柱	1間	2.1	2間	4.6	-	N85° W
69	篠	SB20	側柱	5間	8.0	2間	3.2	25.60	N11° E	101	池 尻	SB06	側柱	1間	-	2間	5.0	-	N78° E
70	篠	SB23	側柱	3間	6.2	2間	3.4	21.08	N11° E	102	池 尻	SB07	側柱	1間	-	2間	1.8	-	N2° W
71	篠	SB24	側柱	2間	5.2	2間	4.8	24.96	N12° E	103	池 尻	SB08	側柱	2間	1.8	1間	1.2	-	N70° E
72	篠	SB03	側柱	?	?	2間	4.8	-	N86° W	104	池 尻	SB09	側柱	1間	0.8	2間	2.0	-	N70° E
73	篠	SB07	総柱	2間	3.1	2間	3.1	9.61	N1° E	105	馬 路	SB512	総柱	2間	3.7	2間	3.7	13.69	N15° W
74	篠	SB08	側柱	3間	6.9	2間	4.9	33.81	N6° E	106	馬 路	SB513	総柱	4間	6.1	2間	3.6	21.96	N15° W
75	篠	SB09	側柱	5間	10	2間	4.3	43.00	N1° E	107	馬 路	SB520	側柱	2間	3.9	2間	3.4	13.26	N15° W
76	篠	SB11	側柱	2間	4.0	2間	3.6	14.40	N1° E	108	馬 路	SB521	総柱	1間	1.6	2間	4.1	-	N79° E
77	篠	SB19	側柱	1間	2.5	2間	5.0	-	N7° E	109	馬 路	SB1	側柱	3間	6.0	2間	5.2	-	N10° W
78	篠	SB22	側柱	2間	3.0	2間	2.5	7.50	N6° E	110	馬 路	SB2	総柱	2間	5.8	2間	4.9	28.42	N10° W
79	杉	SB10	総柱	3間	6.3	2間	4.5	28.35	N10° W	111	馬 路	SB3	側柱	5間	9.4	2間	4.8	45.12	N9° W
80	杉	SB17	側柱	2間	4.8	2間	3.0	14.40	N10° W	112	馬 路	SB4	側柱	4間	10.0	2間	4.8	48.00	N4° W
81	杉	SB06	総柱	2間	3.7	2間	3.7	13.69	N10° W	113	河原尻	SB01	総柱	3間	5.1	3間	4.5	22.95	N12° W
82	杉	SB07	側柱	2間	3.6	2間	3.4	12.24	N8° W	114	河原尻	SB02	総柱	3間	5.6	3間	4.2	23.52	N12° W
83	杉	SB08	側柱	3間	7.5	2間	4.8	36.00	N7° W	115	河原尻	SB08	総柱	2間	4.8	2間	4.2	20.16	N14° W
84	杉	SB09	側柱	3間	7.2	2間	3.0	21.60	N8° W	116	河原尻	SB16	側柱	3間	7.2	2間	5.4	-	N1° E
85	杉	SB11	総柱	2間	5.4	2間	4.6	24.84	N10° W	117	河原尻	SB18	側柱	5間	10.8	2間	4.5	48.60	N78° E
86	杉	SB12	側柱	3間	6.0	1間	1.8	-	N9° W	118	河原尻	SB134	側柱	3間	5.9	2間	4.5	26.55	N89° W
87	杉	SB13	側柱	3間	6.3	2間	2.1	-	N11° W	119	河原尻	SB186	側柱	3間	7.5	2間	3.9	-	N79° E
88	杉	SB14	側柱	2間	3.0	2間	2.4	7.20	N9° W	120	河原尻	SB708	-	1間	4.5	1間	3.0	13.50	N20° W
89	杉	SB18	側柱	2間	2.6	2間	2.6	6.76	N10° W	121	河原尻	SB472	側柱	3間	6.5	2間	4.2	27.30	N3° E
90	杉	SB01	側柱	2間	4.2	2間	4.2	-	N7° W	122	河原尻	SB499	総柱	5間	11.1	2間	4.8	53.28	N83° W
91	杉	SB02	側柱	3間	6.3	2間	4.2	26.46	N7° W	123	河原尻	SB536	側柱	5間	12.6	2間	4.5	56.70	N5° E
92	杉	SB03	総柱	3間	8.1	3間	6.3	51.03	N83° E	124	河原尻	SB551	側柱	4間	8.4	2間	4.8	40.32	N87° W
93	杉	SB04	側柱	3間	6.0	3間	4.5	27.00	N8° W	125	河原尻	SB573	側柱	3間	6.9	2間	2.4	16.56	N8° W
94	杉	SB05	側柱	3間	5.1	1間	2.7	-	N10° W	126	河原尻	SB606	-	2間	3.6	1間	2.1	7.56	N7° W
95	杉	SB15	総柱	2間	2.4	2間	3.6	-	N2° W	127	河原尻	SB615	総柱	2間	4.2	2間	3.6	15.12	N83° E
96	杉	SB16	総柱	2間	2.7	2間	3.6	-	N5° W										

第3表 掘立柱建物跡規模一覧表 (鎌倉時代)

番号	遺跡名	遺構番号	建物 形態	規 模 (m)		面積 (㎡)	主 軸		番号	遺跡名	遺構番号	建物 形態	規 模 (m)		面積 (㎡)	主 軸	
				桁 行	梁 間		方 向	方 向					桁 行	梁 間		方 向	方 向
1	千代川	S-B10168	側柱	4間	7.4	6.9	51.06	N2° W	34	天 川	S-B02	側柱	3間	5.1	20.40	N6° E	20.40
2	千代川	S-B10171	側柱	4間	6.6	4.6	30.36	N90° W	35	天 川	S-B03	側柱	2間	3.5	-	N2° E	-
3	千代川	S-B10166	側柱	3間	5.1	4.3	21.93	N3° W	36	天 川	S-B04	側柱	1間	2.0	-	N86° W	-
4	千代川	S-B10167	側柱	4間	6.1	4.9	29.89	N89° W	37	天 川	S-B05	側柱	1間	2.0	-	N85° W	-
5	千代川	S-B15001	総柱	2間	5.0	2.7	13.50	N3° W	38	天 川	S-B06	側柱	1間	2.0	-	N88° W	-
6	千代川	S-B15002	総柱	2間	4.7	3.4	-	N7° E	39	天 川	S-B07	側柱	3間	7.8	31.98	N2° W	31.98
7	千代川	S-B15003	総柱	1間	1.5	1.7	2.55	N6° E	40	天 川	S-B08	側柱	3間	7.2	29.52	N1° W	29.52
8	千代川	S-B15007	総柱	2間	4.3	3.6	15.48	N7° E	41	天 川	S-B09	側柱	1間	2.2	-	N2° W	-
9	千代川	S-B15008	総柱	1間	1.7	1.4	-	N7° E	42	太 田	掘立1	総柱	2間	4.1	15.79	N6° E	15.79
10	千代川	S-B11001	総柱	4間	9.5	5.8	55.10	N5° E	43	太 田	掘立2	側柱	3間	7.4	25.90	N1° E	25.90
11	千代川	S-B12001	総柱	4間	9.5	8.0	76.00	N1° E	44	太 田	掘立3	総柱	1間	2.4	-	N5° E	-
12	千代川	S-B12002	総柱	2間	6.0	4.0	24.00	N3° E	45	太 田	掘立4	総柱	1間	2.4	-	N9° E	-
13	千代川	S-B35001	総柱	5間	13	8.2	104.96	N3° W	46	太 田	掘立5	総柱	2間	4.4	-	N10° E	-
14	千代川	S-B35002	-	1間	2.7	1.9	5.13	N89° E	47	太 田	掘立6	側柱	2間	4.4	11.88	N6° E	11.88
15	千代川	S-B35003	-	2間	3.6	1間	2.5	N85° W	48	太 田	掘立7	-	3間	5.2	-	N2° E	-
16	北金岐	B-S-B31	側柱	2間	4.2	4.8	-	N0° W	49	太 田	掘立8	側柱	6間	15.6	98.28	N0° W	98.28
17	北金岐	B-S-B32	側柱	3間	6.6	5.1	33.66	N2° E	50	太 田	S-B31	側柱	3間	5.3	18.02	N78° W	18.02
18	北金岐	B-S-B33	側柱	2間	6.9	6.0	41.40	N7° W	51	太 田	S-B32	側柱	2間	5.6	25.20	N69° W	25.20
19	北金岐	B-S-B38	側柱	2間	5.7	4.5	-	N3° W	52	太 田	S-B33	-	5間	9.6	22.08	N83° W	22.08
20	北金岐	B-S-B48	側柱	2間	6.6	6.0	39.60	N3° W	53	太 田	S-B34	側柱	4間	9.9	41.58	N77° W	41.58
21	北金岐	C-S-B02	総柱	4間	9.2	8.7	80.04	N8° W	54	太 田	S-B35	側柱	2間	5.3	-	N12° E	-
22	北金岐	C-S-B09	側柱	3間	5.9	3.9	22.82	N3° E	55	太 田	S-B36	側柱	2間	4.7	-	N1° E	-
23	北金岐	C-S-B17	側柱	2間	4.9	3.5	16.91	N10° W	56	太 田	S-B148	総柱	3間	3.6	12.24	N1° W	12.24
24	北金岐	C-S-B56	側柱	3間	6.3	10	-	N5° W	57	太 田	S-B161	総柱	5間	11.0	99.00	N81° W	99.00
25	北金岐	C-S-B57	総柱	2間	5.4	5.3	-	N3° W	58	太 田	S-B149	総柱	4間	11.0	88.00	N11° E	88.00
26	北金岐	C-S-B59	側柱	2間	5.7	6.0	-	N3° W	59	太 田	S-B153	側柱	2間	4.8	23.04	N19° W	23.04
27	北金岐	C-S-B60	側柱	2間	5.1	3.6	18.36	N3° W	60	太 田	S-B154	側柱	3間	6.1	21.35	N25° W	21.35
28	北金岐	C-S-B62	総柱	3間	8	6.2	49.29	N7° W	61	太 田	S-B155	側柱	5間	8.1	39.69	N57° E	39.69
29	北金岐	C-S-B63	総柱	1間	1.8	7.2	-	N3° W	62	太 田	S-B156	側柱	3間	5.3	21.73	N78° E	21.73
30	北金岐	C-S-B64	側柱	3間	6.0	3.0	-	N6° W	63	太 田	S-B157	側柱	5間	14.1	70.50	N12° W	70.50
31	北金岐	C-S-B10	-	2間	4.6	2.0	9.2	N9° W	64	太 田	S-B158	-	3間	2.1	-	N34° W	-
32	北金岐	C-S-B15	側柱	1間	1.7	3.8	-	N16° W	65	太 田	S-B159	-	3間	8.0	14.40	N70° E	14.40
33	北金岐	C-S-B29	側柱	1間	2.1	3.5	-	N3° E									



第3図

群の建物規模が明確なものは、遺跡南側がB群建物6棟・C群建物6棟からなり、遺跡南端部がB群建物2棟以上からなる。これらはその主軸方向が一定でなく企画性に欠けることから、一般集落でないかと考える。また建物群を区画する溝は存在せず、建物の主軸方向がさまざまであることから、当時この地域には条里が施行されていたとは考えにくい。北金岐遺跡では、東西方向の溝が3条おおむね平行関係にあり、その間隔はおよそ60mと47mを測る。これらの溝間あるいは溝を挟む形で建物が2か所に集中する。B群建物3棟・C群建物3棟・井戸1基からなる群とB群建物1棟・C群建物2棟・L字状の柵列2条・コ字状の溝からなる群である。A群建物がないことから一般集落とし、出土遺物から奈良時代中頃と報告されている。また溝については、集落内を区画する溝で、条里地割りと考えられる。太田遺跡では、A群建物を3棟平行に配置し、その隣接地にB群建物7棟とC群建物3棟が設けられていた。建物群としてはまとまりを持たないが、おおむね東に振る傾向がある。条里にともなう溝や区画溝は存在しない。篠遺跡では、奈良時代後半をⅠ期、奈良時代末～平安時代初頭をⅡ期、平安時代前期をⅢ期、平安時代後期をⅣ期として、遺構を時期別に分けている。建物規模の明確なもので、Ⅰ期に該当する建物は、A群建物1棟・C群建物1棟からなり、建物は点在する形にある。Ⅱ期は、A群建物3棟・B群建物3棟からなる。A群建物に有庇建物も含まれる。建物群は、平行あるいは直行関係

にあり、企画性が見られる様になる。Ⅲ期は、A群建物1棟・B群建物2棟・C群建物4棟からなる。A群建物は有庇建物で、C群建物は側柱建物である。建物群は、平行あるいは直行関係に配されていた。Ⅳ期は、L字に屈曲する溝のコーナー部にA群建物3棟とC群建物3棟が存在する。篠遺跡では、建物構成の基本形は見取れないが、奈良時代末～平安時代前期には集落としてのまとまりを持つようになり、その主軸方向も一定方向を向く。平安時代後期には、溝を設けその一画に集落が集まる。これは、条里区画の施行に伴うものと考えられる。杉南遺跡では、8世紀後半をⅠ期、9世紀代をⅡ・Ⅲ期、10世紀前半～中頃をⅣ期として、遺構を時期別に分けている。Ⅰ期の建物はB群建物1棟・C群建物1棟である。他に6間以上の建物ないし回廊が存在するが、全容は不明である。Ⅱ期の建物は、B群建物7棟とC群建物1棟からなる。C群建物は3棟が総柱建物である。Ⅲ期に該当する建物は、A群建物1棟とB群4棟である。C群建物はⅡ期には多く存在したが、この時期にはない。一方B群建物は、いずれもC群建物に近い規模のものであることから、側柱建物であるが倉庫であった可能性も考えられる。Ⅳ期の建物2棟は調査地外に延びるため全容は不明であるが、総柱建物であることから倉と考えられる。この遺跡の建物については、北金岐遺跡のように基本単位となる建物群はないが、C群建物の占める割合が大きく、B群建物に総柱のものも存在することから、倉庫群とその管理棟であったと考えられる。馬路遺跡では、8棟の建物を検出した。総柱建物4棟と側柱建物4棟である。総柱建物4棟と側柱建物2棟はC群建物に、側柱建物2棟はA群建物に該当することから、前者は倉庫群に後者は管理棟であったと思われる。管理棟1棟については倉庫と重複するため、管理棟は1棟ずつ時期を違えて存在したと思われる。8世紀後半～10世紀前半にかけての建物群である。河原尻遺跡では、掘立柱建物跡群は、大きく奈良時代後半と平安時代に分けられる。奈良時代後半には、平行関係にあるA群建物1棟とB群建物1棟の西側にC群建物7棟が集中する。その数は総柱建物が3棟、側柱建物4棟からなる。平安時代になると平行あるいは直行関係にある建物が4棟存在する。A群建物3棟、B群建物1棟からなり、A群建物の内1棟は総柱建物である。平安時代の倉庫については、奈良時代後半の倉を継続使用していたか不明であるが、仮にそのように考えると平安時代には屋と倉の範囲が明確に分かれていたと思われる。このように奈良時代後半から倉の占める割合が高く、屋も整然と配されていることから、この遺跡は倉庫群と管理棟からなると思われる。「蔵」と記した墨書土器が出土したことは注目される。

4. 鎌倉時代の掘立柱建物跡について

掘立柱建物跡の規模をもとに、桁行と梁間でもって第3図に示した。これらから掘立柱

建物跡を2群に分け、遺跡ごとにその様相を見てみる。奈良～平安時代の掘立柱建物跡に比べて建物の平面形は方形に近づき、群としては二つしか認められない。総柱建物についてもさまざまな建物規模が認められ、倉だけでなく中心施設にも使用された。

A群 床面積70㎡以上のもので、桁行4～6間以上×梁間3～4間以上からなる。該当する建物の数は16%を占める。桁行4～5間の方形に近い建物と6間の長方形の建物に分けられる。大半は総柱建物で、遺跡の中心的な施設に相当すると考える。

B群 床面積10～70㎡のもので、桁行2～5間×梁間2～3間からなる。総柱と側柱建物の比率は1：7で、さまざまな床面積の総柱建物がある。

千代川遺跡では、建物群が4か所に集中する。そのうちの北半部の2か所には、大型の建物や総柱建物が存在する。南半部では比較的小規模な建物群が2か所に存在する。北半部の様相は、A群建物1～2棟とB群建物1～2棟で構成される。建物の主軸方向はおおむね一定方向を向く。南半部では、B群建物4～5棟が重複する形で検出できた。その状況から時期ごとに2～3棟が存在し、建物規模から一般集落と考える。調査地外に延びることから集落の全容については不明である。区画する溝などの検出には至っていないが、建物群間の距離が120m前後ある。北金岐遺跡では、調査地西側に建物群が集中する。流路を挟んだ付近に大型の建物が集中し、流路に沿ってB群建物の中でも小型のものが点在する。A群建物3棟・B群建物15棟からなる。A群建物はすべて総柱建物で平行関係にあり、中心的な施設と考えられる。天川遺跡ではB群建物4棟が検出された。太田遺跡では、大きく2か所調査が行われ、2～3の集落が認められた。A群建物1～2棟、B群建物5～6棟で構成される。L字状に屈曲する溝や柵列で区画された一画に建物が集中し、中心施設と思われる建物については周囲を溝が囲む。この建物については、建物中央の間口が他の間口に比べて若干広いことや、周囲に溝を設けていることから倉庫2棟の可能性もある。

5. まとめ

南丹波地域における奈良時代から鎌倉時代にかけての主要な官衙遺跡・集落遺跡について概観した。国府や郡衙など官衙の位置ならびにその範囲については、今までの成果では特定しかねる。ここでは官衙に関連する集落遺跡について一考し、まとめとする。

集落遺跡の主要遺構である掘立柱建物跡の規模では、その建物が屋か倉として使用されたかについては不明である。しかし、一般的には長方形の平面をもつ側柱建物を「屋」とし、正方形の平面をもつ総柱建物を「倉」とする。広瀬和雄氏は、屋と倉が共存する場合と倉を欠く場合に分けられている。共存する場合でも屋と倉の比率はおおむね3：1であ

とする。^(注14)南丹波地域の主要遺跡を屋と倉の比率を見ると、千代川遺跡南側の集落では14：1、太田遺跡では17：2と、屋の占める比率が高い。これに対し北金岐遺跡では7：2、馬路遺跡では4：4、河原尻遺跡では12：3と、屋と倉の比率が4：1以上の割合で倉の占める割合が高くなり、他の遺跡に比べて倉の数が相対的に多いと言える。側柱建物の中でも床面積の小さなものについても倉の可能性があるとすると、北金岐遺跡では4棟、馬路遺跡では8棟全て、河原尻遺跡では7棟となり、倉の占める割合が半数ならびにそれ以上を占めるようになる。このように倉の占める割合から、前者が一般集落として、後者は一般集落でありながら官的機能も有した集落と考えてみた。山中敏史氏は、官衙関連遺跡を3類に大別される。Ⅰ類は、集落・居宅とは別に分離して設けられた官衙施設とする。Ⅱ類は、民間施設に併設された官衙施設とし、Ⅲ類は、官衙機能の一翼も担った民間施設とする。Ⅰ類には正倉別院、国衙・郡衙出先施設などで、Ⅱ類には小院や借倉などがあるとする。Ⅰ・Ⅱ類を末端官衙、Ⅲ類を官衙補完施設と称されている。^(注15)上記の倉の数が比較的が多い遺跡は、この末端官衙に該当すると考えられないだろうか。

延暦14(795)年閏7月15日太政官符に、

諸國建二郡倉一。(略)加以倉舍此近。薨宇相接。一倉失レ火。百倉共焼。ココニ言念二其弊一。有レ損二公私一。宜須下每レ郷更置二一院一。以濟二百姓一兼絶中火祥上。^(注16)(略)とあり、百姓の納税の便を図るため、また火災による焼失の危険分散のため、郷ごとに新たに倉院を設置する策がとられ、同年9月17日には一郷一院制をゆるめ、相接する郷に一院を置くことに修正された。10世紀に成立した『和名類聚抄』によると、桑田群には小川・桑田・漢部・宗我部・川人・荒部・池辺・弓削・山国・有頭・横作・佐伯の12郷が存在した。平安時代にはこれら郷ごとに倉庫群が点在していたと考えられる。小川郷は現在の馬路町から千代川町に、桑田郷は「桑田郡寺」の存在を窺わせる地名と桑寺廃寺の存在から千代川町に、池辺郷は馬路町池尻付近に、佐伯郷は蔦田野町に、川人郷は保津町に、荒部郷は千歳町から馬路町にかけて比定されている。^(注17)

特に馬路遺跡では、一般集落よりも倉の比率が高く、9世紀代～10世紀前半頃まで続く。当地が小川郷に比定されていることを考慮すると、小川郷の郷倉であったと推定したい。また河原尻遺跡については、8世紀後半から倉を含む掘立柱建物跡群が設置される。これは、遺跡北側隣接地に丹波国分寺・国分尼寺が存在し、天平13(741)年諸国に国分寺・国分尼寺の建立を命じた際に河原尻遺跡付近が官的機能を兼ね備えた地となった。このような状況から他の地域よりも先進的に開発され、中心施設が設けられたと考えられないか。これら建物群と国分寺・尼寺を含めた地が、荒部郷の中心と考えたい。

鎌倉時代になると、建物群がごく限られた範囲に集中するようになる。太田遺跡で見られるように、建物を溝や柵列で囲み、L字状に屈曲する溝でもって居住域を囲むなどの空間を設けていた。また、遺跡ごとに見ると、大型の総柱建物(梁間2間×桁行が6間前後)1～2棟を中心に、小型建物を数棟付属施設として構成される傾向がある。この時期の集落遺跡の事例が限られているため、今後の調査成果に因るところが大きい。

最近までの主要遺跡の成果から、官衙関連遺跡の様相について考えてみた。古代から中世にかけての、特に古代の集落遺跡を比較し、総柱と側柱建物の比率などから、馬路遺跡は小川郷郷倉として、河原尻遺跡については国分寺建立の、あるいは荒部郷の中心地としての末端官衙であったのではないかと考えた。今後さまざまな方面から検討を要すると考える。

(おかざき・けんいち=当センター調査第2課専門調査員)

- 注1 森下 衛「千代川遺跡」(『京都府遺跡調査報告書』第16冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1992
- 注2 石井清司「北金岐遺跡」(『京都府遺跡調査報告書』第5冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1985
- 注3 増田孝彦「太田遺跡第5次発掘調査概要」(『京都府遺跡調査概報』第82冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1998
- 岡崎研一「太田遺跡第8次発掘調査概要」(『京都府遺跡調査概報』第89冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 1999
- 増田孝彦「太田遺跡第10次発掘調査概要」(『京都府遺跡調査概報』第94冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2000
- 小池 寛ほか「太田遺跡第13次発掘調査概要」(『京都府遺跡調査概報』第99冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2001
- 注4 樋口隆久「篠遺跡第2次発掘調査」(『亀岡市文化財調査報告書』第25集 亀岡市教育委員会) 1991
- 注5 中澤 勝「杉南遺跡発掘調査報告書」(『亀岡市文化財調査報告書』第52集 亀岡市教育委員会) 1999
- 注6 石崎嘉久「池尻遺跡第7次」(現地説明会資料No. 05-02 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2005
- 注7 森島康雄・村田和弘ほか「国営農地再編整備事業「亀岡地区」関係遺跡平成15年度発掘調査概要」(『京都府遺跡調査概報』第114冊 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2005
- 村田和弘「馬路遺跡第4次」(現地説明会資料No. 05-05 (財)京都府埋蔵文化財調査研究センター) 2005
- 注8 注7と同じ

注9 注1と同じ

注10 注2と同じ

注11 樋口隆久「天川遺跡発掘調査報告書」(『亀岡市文化財調査報告書』第29集 亀岡市教育委員会) 1993

注12 注3と同じ

注13 金田章裕「国府の形態と構造について」(『国立歴史民俗博物館研究報告』第63集 国立歴史博物館) 1995

注14 広瀬和雄「畿内の古代集落」(『国立歴史民俗博物館研究報告』第22集 国立歴史博物館) 1989

注15 山中敏史「末端官衙と豪族居宅」(『古代の官衙遺跡「遺物・遺跡編」奈良文化財研究所) 2004

注16 黒板勝美『類聚三代格 前編』(吉川弘文館) 1980

注17 亀岡市史編さん委員会『新修亀岡市史』本文編第一卷(亀岡市) 1995
亀岡市史編さん委員会『新修亀岡市史』資料編第一卷(亀岡市) 2000

